

日本の学童ほいく

全国学童保育連絡協議会

普及拡大 ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万6000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2022年1月19日

元気が出る
みんなの
取り組みを
ご紹介

楽しく普及拡大

ほいく誌の記事を
テーマに交流が
また楽しい！

目標を持って
楽しく普及拡大に
取り組もう！

**目標は「各クラブ1冊増」「全クラブ購読」「全指導員購読」！
ほいく誌を読む会「カフェ HOIKUSHI ござ〜れ」は交流の場に！**

山形県連協は年に2回、『日本の学童ほいく』普及拡大担当者会議を行っています。購読数、購読層、活用状況の資料をもとに現状を把握したうえで意見を出し合います。目標としている「各クラブ1冊増」「全クラブ購読」「全指導員購読」は、これまでの会議で話し合いを重ねるなかで導き出されたものです。特に「各クラブ1冊増」は、小さな目標のようですが、達成すればひと月当たり購読クラブ数のぶん増える（購読しているのが100クラブなら100冊増）ので、背伸びせずに取り組むことができ、同時に大きな成果につながります。また、2021度は、8月に行った第1回普及拡大会議で、念願だった編集部の職員さんのお話をお聞きすることができました。編集に携っておられるお二人の話をお聞きすることができて、いっそう熱く各地域での普及拡大に取り組んでいます。

山形県 の 取り組み

数年前に有志が不定期で行っていた「ほいく誌を読む会」が「カフェ HOIKUSHI ござ〜れ」として再始動して半年が経ちました。今は Zoom を活用して毎月第3水曜日の午前中に定例化しています。特集内容の読み合わせと感想の出し合い、特集テーマに関するクラブの状況の交流を中心に、参加者それぞれがお気に入りのコーナーや記事について語り合っています。時には、仕事上の悩みが話されてそのことをみんなで考え合うこともあります。各地域で取り組んできた指導員会（研修や交流）は、コロナ禍でまだまだ集合して実施することはためられることもあります。「カフェ HOIKUSHI ござ〜れ」は、クラブや地域を越えて交流し、情報交換できる良い機会になっていると思います。

2月には第2回普及拡大担当者会議を予定しています。第1回会議を受けて各地域で取り組んできたことの交流や、今後の普及拡大へ向けた取り組み内容等について話し合う予定です。これまでやってきたことに加えて、新たな「ほいく誌アピール」についても考えられたらと思っています。

* 毎月開催のほいく誌読み合わせ会
「カフェ HOIKUSHI ござ〜れ」

日本の学童ほいく 2月号

特集 第56回 全国学童保育研究集会

— 共に学び、未来へつないだ全国研 —

2021年10月23日～24日、第56回全国学童保育研究集会がオンラインで開催され、全国各地から4612名が参加し、大いに学び、語りあいました。2日間の模様を、全体会のダイジェスト、参加者の感想、分科会報告などから振り返ります。



日本の学童ほいく

普及拡大 ニュース

みんなで読もう目標 3万6000部

2022年1月19日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

長崎県長与町●保護者から

小学二年生と年少の息子二人と、久しぶりにスーパーに買い物に行きました。すると、私と兄に挟まれて手をつないで歩いていた下の子が、「兄ちゃん、真ん中になって!」と兄を真ん中へ。私が手を握りましたが、上の子はまったく握り返してきません。「もしかして恥ずかしいの?」と尋ねると、「うん……ちょっとね」と。

ちょっぴり、さびしい気持ちでしたが、その後は弟の手を引いてトイレに連れていってくれたり(行く前に「ハンカチは?」と尋ねてくれて、びっくりしました!)、荷物を持ってくれたり。

私の手を握らないかわりに、その手でたくさん私を助けてくれていることに気づき、「うれしい成長なんだ」と思いました。

(『日本の学童ほいく』2022年1月号
「読者のひろば」より)

奈良県生駒市●保護者から

2021年11月号の特集「たのしく食べる おいしく食べる♪」を読みました。

平本福子先生の「学童保育における『おやつ』について」でふれられていた、コロナ禍での「おやつ」のあり方が印象的でした。

これまでは、「今日のおやつは○○だった。ラッキー」などと話していた娘も、コロナ禍で友達と会えない時間が増えるなか、「(学童保育では)友達と一緒に食べることができてうれしい。楽しい」と話すようになりました。

「お友達とおやつを選ぶときが楽しい」「モグモグするときはしゃべらない」と、指導員の先生のお話も目的を持って聞いています。「お友達と一緒に過ごす楽しい時間を守るためには……」と考えている印象です。

「黙食」を徹底することのむずかしさ、何度も注意せざるを得ないことのもどかしさなど、学童保育現場の大変さが伝わってきます。

「食をとおした人とのつながり」「楽しい時間を大切に」など、いろいろな視点で考えさせられました。

(『日本の学童ほいく』2022年2月号「読者のひろば」より)

『日本の学童ほいく』は、指導員になった1年目から先輩方に勧められ、購読しています。はじめの頃はあまり課題意識をもたずに読んでいたと思います。それでも、まだ私が読んでいない「ほいく誌」を先輩方が「〇月号の特集、よかったよねえ～」と話題にした時には、「話についていきたい」と思い、必死になってその号を読んだことを思い出します。購読して数年後、「ほいく誌」に原稿を書く機会をいただきました。試行錯誤しながらなんとか書いた原稿を先輩に見てもらい、一緒に考えてもらいました。「ほいく誌」を話題にした話についていこうとすることも、原稿を書くことも、私にとって大切な学びの機会でした。今、指導員仲間『日本の学童ほいく』をすすめる際には、同じ区の指導員が書いた記事を紹介して、少しでも身近に感じてもらえるようにしています。

今の私のおすすめは、松崎運之助先生の「心の散歩道」です。松崎先生の柔らかい語り口に心が癒されます。また『日本の学童ほいく』に掲載されているさまざまな記事は、子ども、保護者、指導員の今が描かれています。悩みながらも目の前の子ども、子どもたちに向き合おうとする保護者、指導員の文章を読むと、「みんな同じ思いをしながら頑張っているんだ」と思え、その姿勢に励まされます。実践上の悩みを抱えているときには、行き詰まって狭くなった私の視野を広げてくれます。書き手の多くの方々と直接面識はないものの、全国各地の子ども、保護者、指導員の皆さんとも、この『日本の学童ほいく』によって、つながりを感じ、そのことが保育実践の支えとなっています。

私と「ほいく誌」

全国連協役員リレー執筆・
今月は東京の高橋誠さん